

小児在宅ケア研究会 会報



小児在宅ケア研究会 <http://hc-cf.jp/>

第19号 2024年8月10日

この夏は例年にも増して暑い日々が続き、熱中症予防に関する様々な情報が飛び交う中、大雨による災害、そして南海トラフ地震に関する注意情報が発表されるなど、自然災害に対する準備をしっかりと行っていかなければならないと改めて感じております。さて、今年度は年次集会在5月と例年より早めに行われたため、会報19号の発行時期もいつもより早くなっております。年次集会的方向と総会の報告をさせていただきますので、ぜひ一読していただけますようお願いいたします。

2024年度小児在宅ケア研究会 第19回年次集会的報告

2024年度の第19回小児在宅ケア研究会の年次集会在、5月18日(土)に京都橋大学で開催いたしました。今年度もオンラインでの参加も可能とし、合計70名(会場44名、オンライン16名)の方にご参加いただきました。今年度の年次集会的テーマは、「すべての子どもがともに生きる豊かな社会を求めて」とし、活動報告6件、そして講演というプログラムとなりました。



活動報告の1件目は、小児在宅ケアコーディネーター研修会の修了生の発表でした。発表は、医療型短期入所施設もみじの家の概要と、看護師の活動などに関する内容で、様々な職種の方と連携しながら、お子さんやその家族がその人らしく過ごせることを目標に工夫されていることを具体的にお話いただきました。このような施設の活動が医療的ケアを必要とするお子さんやそのご家族の生活を支えていると感じました。活動報告2件目は、NICU/GCUで行っている在宅移行支援に関する活動の報告でした。医療的ケアを必要とするお子さんの退院に向けて、家族が主体となる支援を行うためのパスの作成、家族の状況を把握するためのエコマップの活用、子どもの成長発達支援を行うための多職種との協働など、他の施設でも参考にできそうな内容の発表でした。3件目は、大阪府医療的ケア児支援センターの活動をコーディネーターの方に発表していただきました。発表の中では開設以来の相談内容の概要や相談以外の取組、そして課題と今後の活動の方向性などに関して報告がされました。医療的ケア児支援センターは現在各地に設置されて始めているところですので、今後の活動が期待されるお話でした。そして4件目の活動報告は、小児在宅ケアコーディネーター研修会修了生で訪問看護ステーションの看護師の方の発表でした。発表では、訪問看護ステーションでの活動について事例を通して具体的にお話をいただきました。発表の中にあった、看護師の少し気になると感じる感覚や、子育てを喜び合える関係作りなどにに関して、改めて大切な事であると再確認いたしました。5件目は、医療的ケアを必要とするお子さんとそのご家族に関わった、

この号の内容

- 1 小児在宅ケア研究会第19回年次集会的報告
- 2 2024年度の総会報告
- 3 編集後記



10年の経過が報告されました。お子さんが亡くなった時のご家族の言葉をきっかけに、お子さんが入院してから現在までの看護師の関わりとご家族の思いを振り返るとともに、ご家族の協力をえて、この10年間のご家族の生活についてもお話をさせていただきました。この発表を聞き、気持ちが揺さぶられた参加者の方が多く見られました。そして最後の活動報告は、現在は大学教員である方の実践を基盤とした研究に関するお話でした。ハイリスク新生児の家族との関わりをきっかけに研究をはじめたこと、そして研究の結果を実践に活用していくことの重要性について報告させていただきました。子どもと家族を主体とする看護を実践するためには、そこで起こっている課題を明らかにするためにも、研究を行う重要性を改めて感じました。

最後は、京都市子どもはぐみ局幼保総合支援室壬生保育所所長の長坂先生による「社会の変化と子どもの成長発達」というテーマの講演でした。先生のこれまでのご経験から、最近の子育て事情や子育て環境、そして子どもたちの成長発達の様子について、具体的な事例をあげながら楽しくお話をさせていただきました。私たち看護職が、お子さんやご家族との関わりの中で感じていることと共感できることもたくさんあり、うなずきながら話を聞かれていた方もたくさんいました。お話を聞き、保育士の方など他の専門職との連携を大切にしていきたいと感じました。

今回ご参加頂いた皆様には、アンケートにご協力をいただいております。多くの方から参加したことに満足をしたというご回答をいただきました。今年度は例年と比較して日程が早くなっていることなどもあり、皆様へのお知らせが遅くなってしまい、参加するための日程調整ができなかったという方もいらっやったと思います。大変申し訳ございませんでした。その中でもご参加いただきました皆様、本当にありがとうございました。またお目にかかれる時を楽しみにしております。

文責 小児在宅ケア研究会副会長 京都橘大学看護学部 堀妙子

2024年度小児在宅ケア研究会総会の報告

2024年度小児在宅ケア研究会総会が、年次集会と同日の5月18日に開催されました。

報告事項では、事務局報告で現在の会員数（123名）の報告がされ、その後2023年度の活動報告が行われました。審議事項では、2023年度の決算・会計監査（案）、2024年度の活動計画（案）、2024年度の予算（案）に関する審議が行われ、全ての事項について承認が得られました。詳しくは、総会資料、議事録等をご覧ください。

編集後記



今年度で年次集会は19回目となり、小児在宅ケアコーディネーター研修会は第20期の研修生をお迎えすることとなりました。研究会は2005年に設立されましたので、今年は20年目となります。この間に社会の様子も大きく変化し、またその変化の速度も急速になってきているように感じています。このような社会の変化に関心を持ちながら、この研究会の活動を継続していきたいと思っております。

また、年次集会・研修会どちらもお知らせが遅くなったこともあり、参加者の方が例年と比較して少ないですが、参加者の方の様子や思いが伝わってくるようで、新たな体験をさせて頂いております。参加者の方との関わりを大切にしながら今年度の活動をすすめていきます。

そして、今年10月より郵送料の値上げがあることもあり、皆様へのお知らせに関しては、メールを中心に行う方向へ変更する予定としております。まずは今年度第2回・第3回の研修会のお知らせ等に関しましては、メールにてさせて頂きます。どうぞご協力よろしくお願い致します。

年度末に連絡先が変更となる予定の方、退会を希望される方等につきましては、恐れ入りますが、下記の小児在宅ケア研究会事務局までお知らせください。ご協力のほど、どうぞよろしくお願い致します。

小児在宅ケア研究会事務局（京都橘大学看護学部：担当 伊藤・堀）
E-mail chc@tachibana-u.ac.jp FAX 075-574-4266